

教職員自主的研究推進事業 実績報告書

研究グループ名【タブレット利活用探究チーム】

代表者の所属・職・氏名	芦屋市立精道小学校	連絡先	住所	芦屋市精道町 8-25
			TEL	0797-32-1111
	FAX		0797-38-7386	
	e-mail アドレス		oobayashi.942@edu-ashiya.ed.jp	
教諭・大林 亮				

活動実績

研究テーマ

主体的・協働的な学びの授業づくり～タブレットの効果的活用～

研究の概要

6月17日 「ICTを活用した主体的・協働的な学びの授業づくりについて」
講師：園田学園女子大学教授

精道小学校（5年国語）授業研究会

<成果と課題>

- 精道小学校における課題解決学習のプロセス・思考を深める ICT 活用のポイントを示すことが必要。
→実践事例をもとに、系統的な効果的な ICT 活用モデルの作成
- ICT 活用とアナログ、それぞれの良さを意識した使い分けをすること。
→思考ツールなどのワークシートを使ったり、まなボードを利用したりして、子どもの思考を深めることを第一に考える。

10月19日 「ICTを活用した主体的・協働的な学びの授業づくりについて」
講師：園田学園女子大学教授

精道小学校（3年算数）授業研究会

<成果と課題>

- 授業におけるねらいを達成するための ICT 活用や協働学習であること。
→教科におけるつきたい力を明確にして、効果的な ICT の活用を考える。
→ねらいをはっきりさせた協働学習（ペアやグループで達成）
- ICT を活用した授業展開を1人1人が精錬する必要性
- 思考を深めるため、思考ツールのより良い使い方を考えていく。

11月11日 JAET 佐賀大会の報告会
実施場所及び人数：精道小学校 13人

<報告内容>

- 学校情報化チェックリストデータの分析から（横浜国立大学：野中陽一教授）
→「教員の ICT 活用」に最も寄与している可能性が高いのは、「教員の ICT 活用指導力とその向上のための校内研修」であるため、定期的な校内における ICT 活用研修が必要である。
→「児童生徒の ICT 活用」に最も寄与している可能性が高いのは、「教員の ICT

活用」であるため、教員の ICT 活用が進まなければ、授業の中で ICT を活用することがないのではないか。

→「情報活用能力の育成と評価」に最も寄与している可能性が高いのは、「ICT の基本的な操作の習得」であるため、操作スキル指導の重要性も高まっている。

→小中では、「教員の ICT 活用指導力とその向上のための校内研修」の要因が大きく、特に ICT を活用した授業研究を行うことが ICT 活用の普及および効果的な活用に寄与している可能性があるため、授業研究に効果的な ICT の活用という観点が必要になる。

○新たな学びの創造に向けて

- ・ 日常の授業における ICT 活用の定着
(教室環境, 授業への統合)
 - 授業改善
 - 学力向上
- ・ 『主体的・対話的で深い学び』のための情報活用・ICT 活用
- ・ 実生活と学校での(デジタル)情報活用のかい離を解消
- ・ 授業内+授業外での主体的な ICT 活用
- ・ 教職員の情報活用能力, ICT 活用指導力の向上は不可欠

基本

校内研修

10月23日 パナソニック教育財団特別指定校2年目 研究発表会

講師：園田学園女子大学教授

精道小学校（6学年22教室・全教科）授業実践・参観・講話

<成果と課題>

○授業場面の「調査」「整理・分析」「まとめ・表現」において、ICT を活用することで子どもの思考の可視化を図ることができた。

○「効果的な ICT の活用」と「思考力・判断力・表現力の育成」を両方とも達成するために「ICT 活用×言語活動（思考スキル）」を意識していく。

今後に向けて

○単元でも、1 授業でも、「思考を繰り返しながら、意欲的に課題を探究する」という授業展開を意識し、子どもの学びを豊かにさせていきたい。

○思考を繰り返すために、学習課題の質（レベル）を高めたり学び合ったりすることを授業の中に位置づけたい。

○子どもをみとる力を高めていくことが、ICT の効果的な活用につながることから、さらに子どもの学びをとらえる力量を高めていかななくてはならない。

これらの視点を生かした形での研究をメンバーそれぞれの学校で持続していかなければならない。また、主体的・協働的な学びを子どもたち自ら展開していくために、タブレットなどの ICT を含め、教師がどのように授業をデザインしていくのかさらに検討が必要である。